

資源国・リスク通貨 来週の為替見通し(1. AUDUSD、2. USDCAD、3. NZDUSD) 1月27日(金曜)午後3時現在

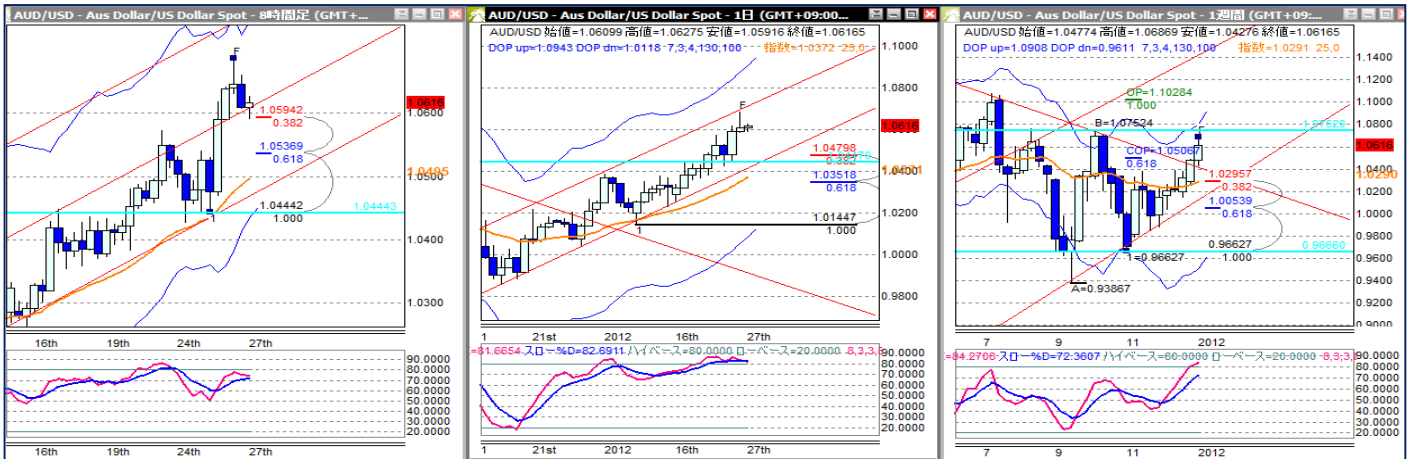
1. AUDUSD 来週の予想レンジ 1.0500~1.0750 中期予想レンジ 1.0400~1.1100

1. コモンウェルス通貨はどこまで為替相場をリードするのか? クロス円を含め
2. 上昇トレンドは変わらずだが、一時的な調整局面の可能性も
3. 高金利、トリプル A 格付け、金価格との強い連動性、中国経済との強い結びつきなどが崩れるまでは、あまり売り材料が見当たらない

AUDUSD・8時間チャート

AUDUSD・Daily チャート

AUDUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレータ・ ブレディケター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
AUDUSD・8時間チャート	1.0496	1.0746	1.0434	73.41	72.09	↑	1.0537	1.0496	1.0687	1.0746
AUDUSD・Dailyチャート	1.0372	1.0909	1.0084	81.43	82.62	↑	1.0480	1.0352	1.0687	1.0909
AUDUSD・Weeklyチャート	1.0290	1.0802	0.9505	84.24	72.36	↑	1.0290	1.0054	1.0753	1.1028

今週は、週初め安値 1.0383 を底値に、26 日の高値 1.0687 まで 304 ポイントで 2.9% 弱上昇、目先の上昇スタートは 12 月 19 日の 0.9894 で、約 793 ポイントで約 8.0% の上昇となっている。要因としては、12 月 20 日に実施された ECB による 3 年物長期リファイナンス・オペ (LTRO) で、523 の金融機関に総額 4,891 億ユーロを供給した。市場の流動性が高まり、1 月~2 月に集中するといわれた大量償還の懸念が払拭したことで、リスクアセットは上昇、AUDUSD も上昇したと思われるが、それ以外でも、金価格との連動性やトリプル A 格付け、主要国ではもっとも高い 4.25% の政策金利などの優位性が指摘されている。また、中国の経済指標にも左右される傾向は続き、20 日の HSBC 製造業 PMI では若干弱めに出了が、金価格の上昇の流れをフォローにし、豪経指標では 20 日の輸入物価指数が強く、消費者物価指数では総合では弱く、コアでは強く、次回の豪中銀の金融政策委員会での利下げ期待は残るがややトーンは弱まっていた。

来週は、経済指標では、31 日に NAB 企業景況感指数、2 月 1 日は HIA 新築住宅販売、住宅価格指数、2 日に住宅建設許可、貿易収支などの発表があり、住宅関連が多くなっている。AUDUSD の上昇が市場をリードして、コモンウェルス通貨 (AUD、NZD、CAD) がドル売りなどをどこまで引っ張れるか、その関連性に注目したい。先週は若干連動性が弱まったが、それでも、AUDUSD と EURUSD との連動性は強く、変動率は別として多分に EURUSD 相場に左右されることは免れない。最安値を更新していた、EURAUD は 1 月 17 日の安値 1.2226 をボトムに 1.2475 まで上昇、ここ数日は 1.2275~1.2475 で安定しているが、1.25 台を達成し維持できなければ再び EURAUD の売りへ変化する可能性がある。また、AUDJPY は円クロスをリードし 11 月 1 日の水準や、終値では 9 月初旬の水準に近づき、強い抵抗にぶつかる可能性が出ている。EUR の要因では、30 日の EU 首脳会議やギリシャの債務交換協議に行方を注意が必要となっている。

テクニカル

8 時間チャートは、EMA1.0496 でこれを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスは売りに変化する兆しがみられるが弱い変化の可能性はある。下値のポイントは 1.0537、1.0496。上値のポイントは 1.0687、1.0746。

Daily チャートは、EMA1.0372 でこれを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスはハイベースで安定しトレンドのある買いの流れが続いていることを示唆。下値のポイントは 1.0480、1.0352。上値のポイントは 1.0687、1.0909。

Weekly チャートは、EMA1.0290 でこの水準を下限に上昇が続いている。長い持ち合いを上抜け強い上昇トレンドが始まっている。ストキャスティクスは買いを継続しているが、ハイベース近くで推移している。下値のポイントは 1.0290、1.0054。上値のポイントは 1.0753、1.1028。

主要通貨 来週の為替見通し(1. AUDUSD、2. USDCAD、3. NZDUSD) 1月27日(金曜)午後3時現在

2. USDCAD 来週の予想レンジ 0.9900~1.0200 中期予想レンジ 0.9800~1.0200

1. コモンウェルス通貨はどこまで為替相場をリードするのか? 円クロスを含め
2. 下降トレンド(CAD 高)は変わらずだが、一時的な調整局面の可能性も
3. トリプル A 格付け、原油格との強い連動性、金利引き下げの可能性も低く、これらが崩れるまでは、あまり売り材料が見当たらない

USDCAD・8時間チャート

USDCAD・Daily チャート

USDCAD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレータ・ ブレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
USDCAD・8時間チャート	1.0093	1.0167	0.9955	25.71	26.91	↑	0.9980	0.9955	1.0083	1.0147
USDCAD・Dailyチャート	1.0145	1.0354	0.9867	21.65	20.72	↑	0.9980	0.9867	1.0096	1.0145
USDCAD・Weeklyチャート	1.0112	1.0688	0.9899	28.64	39.38	↓	0.9884	0.9406	1.0292	1.0374

今週は、週初めの高値 1.0160 をピークに、26 日の安値 0.9980 まで 180 ポイント 1.8% 弱の下落 (CAD 高) になり、この流れは 1 月 13 日 (金) に S&P がユーロ圏 9 カ国を格下げした当日の高値 1.0283 から始まり、303 ポイント約 2.95% の下落 (CAD 高) となった。リスク許容度が高まると上昇するグループに属し、ドル安の影響を受けながら、コモンウェルス通貨の一員として、他の仲間である AUD や NZD と同じ方向性を示していた。経済指標では前週 20 日のカナダ消費者物価指数の総合コアも弱く、24 日の小売売上高は前回より大幅に低下し、金利引き上げの時期が先延ばしされる結果となったが、市場の反応は CAD 売りが弱く、USDCAD は 12 月 8 日の安値 1.0051 を割りこみ、1.0 のパリティをも一時割り込んで取引されている。

来週は、経済指標では 31 日の GDP は前月比 0.2% と前回 0.0% から拡大が予想され、2 月 3 日の失業率は 7.5% と前回と変わらず予想となっており、雇用ネット変化・労働参加率を含め注目され相場への影響は大きい。今週パリティの 1.0 を一時割り込んだことで、いままで続いていた 1.01~1.03 から昨年 10 月 27 日の 0.99 近くが次の目標とされている。欧州債券市場が落ち着きを取り戻し、リスク商品へ資金がシフトも見られ、金価格の上昇にフォローの風を受け、財政も比較的良く、数少ないトリプル A 格付け国への投資意欲は強く CAD 高の材料が多い。リスク要因としては、欧州債務危機の深刻かにリスク資産売りが極端に強まるか、テクニカル面での CAD のロングポジション (USDCAD のショート) が膨らむことでの巻き戻しがあげられる。

テクニカル

8 時間チャートは、EMA1.0093 で、これを上限に下落が続いている。ストキャスティクスは買いへ変化する兆しが見られ、ローベース水準で推移している。下値のポイントは 0.9980、0.9955。上値のポイントは 1.0083、1.0147。

Daily チャートは、EMA1.0145 で、これを上限に下落が続いている。ストキャスティクスは買いへ変化し、1.0 のパリティをブレイクした一時的な反動も考えられる。下値のポイントは 0.9884、0.9406。上値のポイントは 1.0292、1.0374。

Weekly チャートは、EMA1.0112 でこの水準を終値ベースで今現在下回って、売りの流れが続く可能性が出ている。ストキャスティクスは売りを継続しベースはローベースに近い。下値のポイントは 0.9884、0.9406。上値のポイントは 1.0292、1.0374。

主要通貨 来週の為替見通し(1. AUDUSD、2. USDCAD、3. NZDUSD) 1月27日(金曜)午後3時現在
 3. NZDUSD 来週の予想レンジ 0.8000~0.8300 中期予想レンジ 0.7800~0.8400

1. AUDUSD の影響を受けやすいが、NZDUSD が昨年 12 月末の上限を超え、0.83 を超えられるかを注目
2. コモンウェルス通貨はどこまで為替相場をリードするのか? 特にクロス円を含め
3. AUD や CAD と比較すると優位点は少ないものの、テクニカルでは上昇傾向が続く

NZDUSD・8 時間チャート

NZDUSD・Daily チャート

NZDUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレータ・		スロー・		トレンド	サポート	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		プレディクター	ストキャスティック	%K	%D						
NZDUSD・8時間チャート	0.8092	0.8278	0.8059	84.05	78.19	↓	0.8092	0.8059	0.8250	0.8278	
NZDUSD・Dailyチャート	0.7971	0.8380	0.7769	89.92	88.16	↑	0.8082	0.7971	0.8311	0.8380	
NZDUSD・Weeklyチャート	0.7924	0.8279	0.7316	84.53	69.09	↑	0.7924	0.7700	0.8279	0.8572	

今週は、週初めの安値 0.8045 をボトムに、昨日 26 日には 0.8235 まで、190 ポイントで 2.36% の上昇となった。この上昇トレンドのスタートは昨年 12 月 15 日で、安値 0.7461 から昨日の高値まで 774 ポイントで 10.37% と大幅な上昇となった。他の主要国の中では際立っており、対ドルでも、対円でも先行した値動きが見られ、NZDUSD0.82 台は昨年 10 月 28 日の水準近くまで上昇した。26 日 NZ 中銀は政策金利 2.5% の据え置きを決定、予想通りの結果で反応は鈍かったが、27 日の貿易収支は 3.38 億 NZD ドルの黒字で、前回 3.08 億 NZD の赤字や、0.5 億 NZD ドルの赤字予想反して、良い結果に、NZD は底堅い展開となっている。

来週は、重要な経済指標の発表もなく、注目は関連性の高い AUDUSD と EURUSD の相場動向にかかっている。その意味では、ギリシャ債務交換協議や EU 首脳会議によるリスクは強く残るが、CFTC のポジションを見るとショートポジションが引き続き多く、ポジション調整による売り圧力も弱いことが予想される。AUDNZD は過去 2 週間程度は大枠で 1.29~1.30 でのレンジ内で取引が続き、AUDUSD の連動性が来週も継続する可能性が高く、12 月 26 日以降の緩やかな上昇と、一日の値幅が少なく安定した上昇が予想される。一方、リスク要因としては、ギリシャ債務交換交渉が行き詰り、ギリシャへの第 2 次支援の目途が立たず、2 月末の期限と言われているフィッチの欧州 6 カ国の格付け見直しも注意したい。

テクニカル

8 時間チャートは、EMA0.8092 で、これを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスはハイバースにあり、サインははっきりしないが、上昇トレンドの上限近くで推移しており、一時的な調整の可能性もある。下値のポイントは 0.8092、0.8059、上値のポイントは 0.8250、0.8278。Daily チャートは、EMA0.7971 で、これを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスはハイバースに留まり、トレンドのある上昇となっている。下値のポイントは 0.8082、0.7971。上値のポイントは 0.8311、0.8380。Weekly チャートは、EMA0.7924 でこれを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスも買いを継続し、ハイバース近くで推移している。下値のポイントは 0.7924、0.7700。上値のポイントは 0.8279、0.8572。

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス。為替レート・金・原油価格は GFT 社の取引レート。
本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com、ロイター社、ブルームバーグ社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com、ブルームバーグ社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011